

Julius-Maximilians-Universität Würzburg での研究生生活  
理学系研究科 化学専攻 D2 西口知輝

10月4日から12月22日までの3か月間にわたり、ドイツ・ビュルツブルクにあるユリウス・マクスимиリアン大学にて短期研究活動を行った。Prof. Carsten Hoffmann の指導のもと、FRET 顕微鏡を用いた GPCR の活性検出をテーマとして研究を進めた。自身の研究室とは異なる顕微鏡技術を用いているため、より速い秒以下のスピードで起こるシグナル変化を検出することができた。今後、自身の研究室にも同様の顕微鏡技術を導入し、GPCR に関する理解を深めていきたいと考えている。

研究室のメンバーと交流が深められたのはもちろんだが、昼食時やクリスマスパーティー等、研究施設全体で集まる機会が多く、幅広い人々と会話することもできた。様々な文化的背景を持つ人々が近い研究分野で活躍している、ということを実感でき非常によい刺激になった。平日は研究活動にいそしむ一方で、休日はドイツ内外を散策する機会に恵まれた。旅先では、日本とはまた異なる、ヨーロッパの歴史の重みを肌で感じることもできた。このような充実した海外派遣を支えてくださった ALPS 関係者のみなさま、Hoffmann 先生と研究室のみなさま、そして指導教官である小澤先生に深く感謝いたします。



研究施設の外観

ビュルツブルクの街並み